



都小道研だより 第5号

～ 研究は厳しく、人間関係は温かく ～ 会長 星野典靖

1 はじめに

6月19日、喜山倶楽部にて「令和8年度 役員のご還暦をお祝いする会（全小道研・都小道研共催）」を開催し、都小道研前会長の吉田友信先生、全小道研副会長の吉成美紀先生（当日はご欠席）のご還暦をお祝いました。

ご来賓として堀田竜次先生をお招きし、全小道研・都小道研の顧問・OB 会の皆様、部員の皆様、総勢52名にご参会いただきました。また、当日はご欠席の皆様（約30名）からは記念品にご賛助いただきました。

中締めでは、全小道研顧問の荻原武雄先生と橋本誠司先生が夕焼け小焼けとふるさとの2曲を披露してくださり、とても温かい雰囲気の中で会を閉じることができました。

令和8年度は都小道研が会の運営を担当しましたが、多くの皆様のお力添えのおかげで大盛会となりました。この場をお借りして、お心を寄せてくださった全ての皆様に感謝申し上げます。

（令和9年度の会は全小道研が会運営を担当し、令和9年6月18日（金）に開催予定です。）

2 「DEI」と道德教育について

(1) 「DEI」について

最近、「DEI」という言葉と出会う機会が増えてきました。

「DEI」とは、Diversity（多様性⇒みんな「ちがい」があること）、Equity（公平性⇒スタートやサポートを公平にすること）、Inclusion（包摂性⇒誰も仲間外れにせず、みんなを活かすこと）の頭文字をとった言葉で、「誰もが自分らしく、お互いを大切にしながら、一緒に最高のチームをつくっていこう」という世界共通の合言葉です。そして、学校、会社、スポーツのチーム等でとても大切にされています。

(2) 「DEI」と道德教育の関連について考える

「DEI」と道德教育は、ともに「一人一人を尊重し、よりよい社会を築く人間を育てる」という点で深く関係しています。ただし、道德教育は「DEI」の考え方をそのまま教え込むものではなく、児童・生徒が多様な価値観に触れながら、自ら考え、判断し、よりよい生き方を主体的に追求することを重視しています。

日本の道德教育では、学習指導要領において「よりよく生きるための基盤となる道德性」を養うことを目標としています。この道德性には、思いやりや公正・公平、相互理解、生命の尊重、社会参画などが含まれています。これらは「DEI」の理念と重なる部分が少なくありません。

まず、「Diversity（多様性）」では、道德教育は一人一人の違いを認め合う心を育てます。人はそれぞれ異なる文化や価値観、能力、考え方をもち、それらを尊重することが社会生活の基盤となります。道德科では、友達との違いや障害のある人、高齢者、外国にルーツをもつ人々などを題材に、多様な立場や考え方を理解しようとする学習が行われています。

次に、「Equity（公平性）」は、全員を同じように扱う「平等（Equality）」ではなく、それぞれの状況に応じた支援や配慮によって、公正な機会を保障する考え方です。道德教育では、「公正、公平、社会正義」の内容項目等を通して、形式的な平等だけではなく、相手の事情や背景を理解した上で、何が本当に公平なのかを考える力を育てます。これは、社会に存在する様々な課題について、多面的・多角的に考える学びにもつながります。

さらに、「Inclusion（包摂性）」は、誰もが安心して仲間として認められ、自分らしく生活できる社会を目指す考え方です。道德教育では、思いやり・親切、友情・信頼、相互理解などを通して、一人一人が学校や地域社会の一員として互いに支え合う態度を育てています。学級においても、誰一人取り残さない人間関係づくりは、道德教育が大切にしている視点の一つです。

一方で、道德教育には「DEI」を扱う際に特に留意すべき点があります。それは、特定の価値観を唯一の正しい答えとして教え込むのではなく、多様な考え方を尊重しながら、自分自身の価値観を見つめ、他者との対話を通してよりよい判断を形成していくことではないでしょうか。道德科は価値の押し付けではなく、答えが一つではない問題について考えを深める教科であり、多面的・多角的な思考と対話を重視しています。このように、「DEI」と道德教育は、人間の尊厳を尊重し、多様な人々と共に生きる社会を目指すという共通の方向性をもっています。

しかし、道德教育の目的はDEIそのものを教えることではなく、多様な価値観や社会的課題に向き合いながら、自ら考え、判断し、行動できる道德性を育むことにあります。これからの予測困難な時代において、「DEI」の理念を理解しつつ、多面的・多角的に吟味し、他者と協働してよりよい社会を創造する力を育成することが、道德教育の重要な役割であると考えています。